

ふりかえる歴史 これからの未来 敢えて紙媒体を続ける。そして時代の背景を探る 小泉製麻グループ 社内報「いずみ」を作り続けて63年目

小泉製麻グループの社内報は、発刊し続けて63年目となる。現在は㈱小泉ビジネスソリューション(所在地：神戸市灘区 取締役社長：植村武雄)で制作している。創刊号は1958年(昭和33.4.10)に、小泉製麻(株)の社報(のちの「いずみ」)で始まり、毎月10日にタブロイド判で発刊していた。1年後、社内報「いずみ」となり冊子サイズとなる。当時の小泉製麻(株)は、社員数が多く社内広報の役割と、社員同士の繋がりを強めるコミュニケーションツールとして社報を創刊した。と記録されている。当時の内容は、会社方針、製品の歴史や職場探訪、郷里の情報やクラブ活動の報告など社員が楽しめる内容であった。

また、高度経済成長期には、地方から集団就職をする女工が多く、従業員の郷里の家族向けに季刊誌の「いずみ家庭版」も約3年間発刊していた。

当時の生活や製品の歴史など様々な情報を得ることが出来る社内報は当社グループにとって、とても貴重な資料である。

実は時代と共に、WEB版社内報に切替える話もあった。しかし、社内報を楽しみにしているOBやOGの方々にも未永く愛読して頂きたいという気持ちから、紙媒体をずっと続けている。今後も、高い閲覧性がある紙媒体での社内報を継続していく方針である。

2年前くらいに社外の方から「企業の集団就職」の件で詳細をお聞きしたいと連絡があった。

その方は、関西学院大学の教授 山口寛先生。高度成長期に実施された制度的な労働力移動である「集団就職」の諸相を研究されている。その研究に役立ったのは社内報「いずみ」。

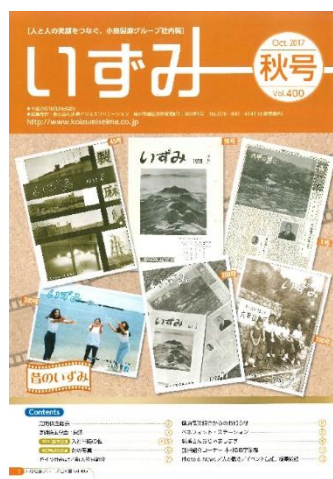
山口教授は、当社グループの社内報から、当時の生活状況や世の中の動きまで見えてきます。とおっしゃっている。



社内報創刊



郷里家族向けの「いずみ 家庭版」



現在版「いずみ」

社内報は、社内広報だけではなく、当時の会社の様子や世情の歴史を語り、これからの未来に現在の記憶を残すという重大な役割もあることに気付いた。

今後も、現在の会社の状況など社内広報を意識しながら記録できることを目指して作成していきたい。

2020年6月発刊予定の130周年記念号は増頁し、先人からのメッセージや、これからの若手とベテラン社員との意見交換に着目した内容も加えて作成中である。



小泉製麻グループ

<取材・資料に関してのお問合せ先>

株式会社小泉ビジネスソリューション 広報担当：篠原 麻裕子

電話 : 078-841-4142 Fax : 078-841-4145

E-Mail : shinohara@koizumi-jm.jp

HP アドレス : <https://koizumi-bs.co.jp>

住所 : 〒657-0864 兵庫県神戸市灘区新在家南町 1 丁目 2 番 1 号
